

電子情報通信学会総合大会依頼シンポジウム

(宇宙・航行エレクトロニクス研究専門委員会)

BI-1 農業分野へのICT技術等の利用に関する現状と展望

2018年電子情報通信学会総合大会

場所：東京電機大学 東京千住キャンパス（東京）2号館 10 F 21005 教室

日時：2018年3月21日（水）13:00～16:15

聴講費：無料

（今大会に限り、一般公開の講演のみご聴講される場合も、総合受付（1号館1階フロア）にてお手続き頂き、参加章をお受け取り下さい。入場ゲートにて、参加章をご提示下さい。）

提案趣旨：

近年、日本の農業の衰退傾向が続き、厳しい状況となっている。しかし、情報通信技術（ICT）を利用し、衛星やドローン等を用いたリモートセンシング技術による情報収集や、GPSを利用した自動運転農機の利用が行われ、農業の新しいモデルの開発が進められている。そこで、研究機関や大学、民間などから現状の農業分野におけるICTを利用した技術や将来展望、研究ニーズなどを紹介してもらい、今後の発展へ繋げる。

オーガナイザ：福島 荘之介（電子航法研） 灘井 章嗣（NICT） 森山 敏文（長崎大学）

座長 森山敏文（長崎大）

13:00～13:05 座長挨拶

13:05～13:30 BI-1-1 合成開口レーダの農業分野での活用

大内和夫（IHI）・石塚直樹（農研機構）

13:30～13:55 BI-1-2 稲作モニタリングへの偏波合成開口レーダの利用

中村和樹（日大）

13:55～14:20 BI-1-3 農業への ICT 技術等の利用研究 —リモセンを中心に—

石塚直樹（農研機構）

休憩（15分）

14:35～15:00 BI-1-4 農業分野へのハイパースペクトルデータの活用

武田知己（宇宙システム開発利用推進機構）

15:00～15:25 BI-1-5 水稻生産現場における衛星リモートセンシングの活用に向けた取り組み

原 政直・岡田周平・八木 浩（ビジョンテック）

15:25～15:50 BI-1-6 衛星リモートセンシングと地理情報システムの活用による農地からの情報抽出

米澤千夏（東北大）

15:50～16:15 BI-1-7 リモートセンシングによるウメ輪紋ウイルス検知のための実現可能性実験

小田川信哉・奥村俊夫（リモート・センシング技術センター）